Memo

■ 100万人が来る図書館

武雄市図書館の内部
カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社サイト
http://www.ccc.co.jp/より

武雄市図書館・歴史資料館は佐賀県武雄市にある図書館を中心とした複合施設として位置づけられている。オープンは2000（平成12）年10月で、市民の教育、学術および文化の振興を図る生涯学習施設として設置された。

その後、「市民の生活をより豊かにする図書館づくり」を目指して、大規模なリニューアルがされ、図書館、蔦屋書店、スターバックスカフェ、歴史資料館、メディアホールなどが融合した新しい形態の図書館として2013（平成25）年4月に再オープンした。

武雄市図書館・歴史資料館は、 2013（平成25）年4月からカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（以下、CCC）が指定管理者として管理運営を受託し、365日開館、書店・カフェの併設、Tポイントカードの導入など、これまでの図書館運営とは全く異なる手法を導入し、全国的な注目を集めている。

同館の特徴としては、施設全体の企画や内装のリノベーションから運営管理までを一貫して民間事業者が行っているという点があげられる。

武雄市側の施設コンセプトとしては、東京都渋谷区にある、書店、ラウンジ、カフェなどが複合した商業施設「代官山蔦屋書店」があり、それに沿った内装整備の段階から行政と民間業者が協働することにつながった。実際のリニューアル前には、約3ヶ月にわたって市民ニーズの把握に努め、「代官山蔦屋書店」の運営ノウハウを活用したサービスの提供に乗り出した。

リニューアル開館1年目である2013（平成25）年度の武雄市図書館・歴史資料館の来館者数はリニューアル前の2011（平成23）年度比3.6倍の92.3万人、貸出利用者数は2倍の16.8万人、満足度は87%（「大いに満足」32%、「満足」55.5%）となった。

これに対して、事業者であるCCCは

官と民が本質的に連携し、企画段階から本の搬出・搬入などの開館準備、市民への説明、オープン後の現在に至るまでのプロセスを共有することで実現した

http://www.ccc.co.jp/showcase/sc_004056.html?cat=life

ことによる成果であるとし、さらなる事業の拡大に意欲を示している。

その後、CCCによる図書館の運営は他地域にも拡大し、神奈川県海老名市、宮城県多賀城市、岡山県高梁市で同様の図書館が開館し、更に広がる動きがある。

多賀城市立図書館外観
多賀城市立図書館サイト
https://tagajo.city-library.jp/　より

挑戦的な取り組みで高い評価を得る一方で、「選書問題」や「ダミー本問題」といった疑念の声も上がっている。そこには契約の不透明さに加えて、市民ニーズをどのように図書館運営に活かすべきかという点についての図書館関係者と行政関係者の意見の乖離や市民の感覚との違いも大きい。 図書館法や、日本図書館協会が採択した「図書館の自由に関する宣言」に基づく図書館のあり方を堅守したいとする図書館関係者と、行政改革や地方創生の流れの中で図書館を集客施設のひとつとして活用したい行政関係者との考え方の違いが大きいといえる。

【設問】
あなたがもし多賀城市の幹部職員で、CCCが運営する図書館について監督する立場であったとしたら、

1. どのような成果をこの図書館に求めますか？
2. どのようなリスクを想定しますか？
3. そのリスクに対してどのような対応をしますか？

Memo

■ 市民の活動の結節点

仙台市青葉区にあるせんだいメディアテークは、東北随一の都市仙台の中心部である定禅寺通り沿いに4,000㎡もの敷地面積を持つ大型施設である。

「誰もが情報を収集し、蓄積し、編集し、発信できる環境の提供」

をコンセプトに、市民図書館、映像音響ライブラリー、視聴覚障害者向けのライブラリーといった、図書館的な機能に加えて、ギャラリー、シアター、スタジオなどの表現空間の提供、情報活用支援やワークショップ活動など、メディアを核とした様々な活動の拠点として活用されている。

せんだいメディアテーク建設のきっかけは、1980年代に起こった「仙台市民ギャラリー」（1975（昭和50）年オープン）の改築要望にある。

その後、定禅寺通り沿いの市営バスの車庫の跡地利用としてこの要望が採り上げられることになった。しかし、一等地で広大な敷地を持つことから単体のギャラリーではなく、当時要望のあった図書館、映像メディアセンター、視聴覚障害者向け情報提供施設を併設する複合施設として計画が進んだ。

せんだいメディアテーク外観
The WallStreet Journal　サイト
http://realtime.wsj.com/japan/2011/05/13/　より

計画当時、仙台では公共事業における透明性確保が大きな課題となっていた。そのため、複合施設の建設にあたってはオープンコンペ形式が採用された。コンペでは、自治体側の仕様にとどまらず、施設のあり方を提案するようなデザインを公募することとなった。

その結果、伊東豊雄のデザインが採用された。伊東のデザインは、利用者の自由度を最大限に高めることを目指し、外壁をガラス張りにし、建物内の壁も極力廃するなど、オープンな雰囲気を醸し出すものであった。

斬新なハードウエアだけが評価されたわけではない。並行してソフトウエアの開発にも様々な議論が重ねられた。その中で、市民活動の「結節点」という考え方が生まれた。この「結節点」という考え方には、利用者自身のネットワークがつながるという意味合いや、利用者のニーズと運営者のサービスがつながるといった意味合いが含まれている。

このようなハードとソフトが融合した結果として2001（平成13）年にオープンしたのがせんだいメディアテークである。

せんだいメディアテークで実施されているプロジェクトの例。昭和の仙台の写真を集め、どこの写真であるかを市民が明らかにするプロジェクト
https://www.smma.jp/category/event/event-smt/　より

現在、せんだいメディアテークでは、様々なプロジェクトが展開されている。

その内容としては、社会課題について考えるもの、映像作家と市民の交流、定禅寺通りで開催されるイベントとの連動、農業、音楽、震災等多岐にわたっている。これらは、運営者側がサービスを提供するというよりも、それらに市民が自ら参画できるように支援するという形を取っており、利用者主体の公共施設のあり方を模索した結果であるといえる。

ただし、せんだいメディアテークが、仙台という街の中でどのような価値を発揮しているかを明確に示すことは難しく、その活動に、多くの市民が納得できる意味付けをすることがひとつの課題となっている。

【設問】
あなたがもし仙台市の幹部職員で、せんだいメディアテークについて監督する立場であったとしたら、
1. どのような成果をせんだいメディアテークに求めますか？
2. 武雄市図書館・歴史資料館とせんだいメディアテークの共通点と相違点はそれぞれどこにあると考えますか？